

京劇（中国劇）について

○概要

中国劇は、唱（歌）を主として、科（しぐさ）と白（せりふ）を伴う伝統的な民族歌劇で、音楽的要素が重要な地位を占めます。しかし、科（しぐさ）も唱（歌）に劣らず重視されて、その動きは舞踊化され様式化されていること、独特の韻律をもつ白（せりふ）も多用される点などは、西洋のオペラとは異なり、とても演劇性が強いです。日本の能や歌舞伎に近いところもありますが、一人の俳優が歌い、動作しながら語るという唱・科・白の三位一体的な表現力を必要とするなど、中国独特の総合舞台芸術といえます。中国劇の成立した宗代以降、民間から貴族層まで広く行きわたり、中国音楽の中心的地位を占め、その音楽は、民間歌曲はもちろん、宮廷演習楽、器楽などにも大きな影響を与えています。広大な中国の各地には、独特の劇が数多くあり、現代においてその代表的な存在は、清代に首都北京で成長した京劇です。

「京劇」という名称が定着したのは1949年の新中国建国以降です。それ以前は、二黄、皮黄、京戲、京劇、平劇、国劇など様々な呼称で呼ばれ、一定しませんでした。また、北京民衆の俗語では、京劇を「大戲」（戲は芝居の意）、京劇以外の地方劇を「小戲」と呼びます。日本語では、昭和中期まで「京劇」をケイゲキと読みましたが、今ではキョウゲキと読みます。

中国の国劇で、伝統舞台芸術の一つであり、2010年にユネスコ無形文化遺産に登録されています。京劇は、文学・歌唱・舞踊・美術・立回りなどの様々な内容を含む総合芸術で、中国文化が凝縮された芸術です。

○歴史（成り立ち）

中国劇が実質的に成立したのは、宋代（960～1279）ですが、それ以前にも、似たような形態の様式を認めることができます。

京劇の歴史としては、起源は18世紀。1790年、乾隆帝の80歳のお祝いのおとき、北京の南方にある安徽省から四つの劇団「四大徽班」が北京で公演を行い、成功を収めました。その後、湖北省から北京に進出してきた俳優たちも合流しました。安徽と湖北の地方劇を基礎としつつ、崑劇や梆子などの地方劇の要素を吸収しながら、19世紀前半に北京で京劇の基礎が形成されました。

○京劇の特徴

本来の京劇は、緞帳や幕は使わずに、舞台装置も机と椅子〔一卓二椅〕^{イー・ジュオアル・イー}くらいで、伴奏の楽隊も旋律楽器・打楽器あわせて数名と小規模でした。また、京劇俳優は「唱念做打」^{チャンニエンツォダー}（うた・せりふ・しぐさ・たちまわり）の四技能を習得していることが要求されます。

○扮装

役柄による扮装には、種類やきまりがあります。とくに淨が用いる「臉譜」^{ジン}と呼ばれる独特の化粧は、多くの種類が存在します。臉譜は、京劇の特徴が非常によく出ている特別な化粧法です。また、歌舞伎の隈取と同じように、使われる色にも意味があります。例えば、赤は誠実、忠義を象徴しています。白は陰險、悪知恵に長けた人物を表しています。黒は意思や心が強く、激情的で粗野な性格を暗示しています。これらの臉譜は、南北朝や隋唐時代に行われていた仮面劇が起源となっています。

〔例：「三国志」の関羽は赤、曹操は白、張飛は黒〕

○役柄

京劇の役柄は、男性役の「生^{シオン}」、女性役の「旦^{ダン}」、隈取の豪傑役の「浄^{ジン}」、道化役の「丑^{チョウ}」の四つに大別されます。

役柄		役柄の説明
シオン 生	ラオシオン 老 生	中高年の善良な男性を演じ、最も歌唱力を要求されます。髭をつけて演じられ、ひげの色で年齢を表します。
	シャオシオン 小 生	若い色男の役柄。旦に似た裏声で歌います。髭はつけずに演じられます。
	ウーシオン 武 生	基本的にセリフは少なく、立回りを専門とする武人の役柄です。
ダン 旦	ラオダン 老 旦	老女。しわがれた声でセリフを言います。
	チョンダン チンイー 正 旦 (青衣)	女の立役で、良家のしとやかな婦人の役。老生と同様に歌唱力が重んじられます。以前は男性の女形が演じていましたが、現在では女性が演じています。
	ファダン 花 旦	潑刺とした若い女性の役柄で、歌よりしぐさとセリフに重きを置きます。
	ウーダン 武 旦	立回りを専門とする女性です。
ジン 浄	チョンジン 正 浄	豪快な性格の男性役。身分や地位が高い豪傑を演じることが多いです。太い声の威圧的な歌唱を主として演じます。
	フージン 副 浄	悪知恵の働く英雄や大泥棒の類を覇気に満ちたしぐさとセリフを演じます。
チョウ 丑	丑	道化役。顔の真ん中を白く塗るのが特徴です。滑稽なしぐさや口語体でのセリフを演じます。

○楽器編成

伴奏の楽隊を一般に「場 面^{チャンミエン}」といい、管弦楽器群の「文 場^{ウェンチャン}」と打楽器群の「武 場^{ウーチャン}」に分けられます。しかし、その両者は、常に関わり合いながら歌唱や舞踊的な動作などの伴奏を行っています。

〈武場〉

楽隊と役者の総指揮者である鼓佬^{グーラオ}（鼓師）が打つ鼓板、そして各1名の奏者による大鑼^{ダールウオ}、小 鑼^{シャオルウオ}、鐃鈸^{ナオブオ}が主要楽器です。これらは全劇を通じて打奏されます。京劇における打楽器は大変重要で、風の音や水の音はもちろんのこと、暗闇の場面の様子なども打楽器で表現されます。

〈文場〉

京胡^{ジンフー}（胡琴）を主とする弦楽器群と、笛子^{ディズー}（横笛）を主とする管楽器群などからなります。



○京劇音楽の楽器

京劇の楽器類は、大きく分けて〔弦楽器・管楽器・打楽器・その他〕の4種類に分けられます。

〈弦楽器〉

ジンフー 京胡	ユェチン 月琴	ジンアルフー 京二胡	サンシエン 三弦
京劇で最も重要な地位を占める擦弦楽器。バイオリンに似た高音。京劇をはじめとする様々な中国劇に使用される竹製の2弦タイプで、サイズは小さいが、高音で音量は非常に大きい。	東アジアの弦楽器。中国では、宋代以降に使用されるようになった。形は月に似て、音は琴の音に似ているのでこの名前が付いた。弦鳴楽器の中の撥弦楽器になる。日本にも江戸時代に伝来し、明清楽も伴奏楽器としても使用された。	京劇において、京胡・月琴に次いで重要な弦楽器。京劇用の二胡であることからこう呼ばれる。京胡より1オクターブ低い。ただし、京胡ほどの音量は出ない。	日本の三味線に近い形の撥弦楽器。名前の通り3弦で、箱状の胴に長い棹が差し込まれていて、リュート型撥弦楽器の一種である。演目や楽隊の人数によっては、三弦は省略されることがある。
ルアンシエン ギョルラン ダールアン 阮咸（中阮・大阮）			
東アジアの弦楽器。胴は円形又は八角形。月琴より長い棹が差し込まれている撥弦楽器。パチや爪をつけて演奏される。大きさによって小阮・中阮・大阮に分類される。 「竹林の七賢」の1人であった阮咸が愛用していたということから、この名前と呼ばれるようになった。日本では、正倉院にも保存されている。			

〈管楽器〉

ディズー 笛子	スォナー 嗩吶	ハイディズー 海笛子	シオン 笙
ノンリードの竹製の横笛。南方の曲笛と北方の梆笛に大別される。曲笛は、本来崑曲の伴奏に用いられてきた。管の長さは60cmほどで、音域は梆笛よりも4度ほど低く、柔らかな音色をもつ。梆笛は、北方の地方戯曲である梆子の伴奏に用いられ、曲笛よりも細く短いために、高く鋭い音が出る。	ダブルリードの縦笛で、さまざまなサイズのものが用いられていて、管の下端が円錐（朝顔）型になっている。西アジアのスルナーイ（ズルナ）が中国に伝来し、その後、日本にも明清楽の楽器として伝えられた。日本では「チャルメラ」を指すこともある。	小型のラッパ。華やかなチャルメラなどに比べると、京劇の音楽ではあまり目立たない存在である。	フリーリードの気鳴楽器。中国の楽器には珍しく、単旋律演奏よりも和音演奏を重視した作りになっている。京劇では、崑曲の旋律を演奏するときに使用される。

〈打楽器〉

グーバン 鼓板	ダールウオ 大鑼	シャオルウオ 小鑼	ナオブオ 鐃鈸
楽隊と役者の総指揮者である鼓佬（鼓師）が担当する、打楽器で最も必要な役割。板鼓（単皮鼓）というかたく鋭い音の小太鼓と拍板という木片を紐でつなげたカスタンネットに似た楽器を併せて鼓板と呼ぶ。京劇では、鼓師が二つの楽器を演奏する。	中国の大型のゴング。中央部が円錐状にやや盛り上がっていて、打った後に音高が下がるのが特徴である。京劇などに用いられ、王や将軍など身分の高い人の入退場や激情の場面で演奏される。	中国の小型のゴング。打った後に音高が上がるのが特徴である。京劇などに用いられ、文人や婦女などの入退場や平静な場面で演奏される。	シンバルのような体鳴楽器。中央部分の膨らんだ円盤を二枚打ち合わせたり、こすり合わせたりして演奏する。高らかで、長く響く音が特徴である。京劇などに用いられ、沈んだ気分の場面で演奏される。文場の月琴奏者が兼任する。

○京劇の音楽〔腔調と板眼〕

京劇で用いる楽曲は、^{チヤンディアオ}腔調（ふし）と^{バンイェン}板眼（拍子）とを組み合わせた名称で示されます。劇の音楽は、腔調と板眼が指定されると、それに伴い曲の拍子、テンポ、旋律の歌い出しの音、中間終止音、終止音が指定され、伴奏の前弾き、合いの手の有無が決まります。

※腔調は、日本語で（こうちょう）と呼ぶこともあります。

^{チヤンディアオ} 〈腔 調〉

中国の劇音楽の曲調。京劇の主要曲調として代表的な「皮黄腔」は、「西皮腔」と「二黄腔」を合わせた名称です。「西皮腔」は、旋律、リズム、音高が動的で激しく高く7音音階を用いるなど、中国北方系音楽の特色を示し、激高や歓喜といった激しい感情の場面に用いられます。「二黄腔」は、中国南方系の温和で静かな音楽の特色を示し、5音音階を用いたなだらかな旋律、安定したリズム、ゆったりとしたテンポのふしで、抒情的な内容や哀傷の情を表現する場面で用いられます。

^{バン イェン} 〈板 眼〉

中国の音楽では自由リズム、拍節リズムともよく用いられます。それらを表す伝統的な用語に、「板眼」があります。「板」とは、第1拍（多くの場合が強拍）で、その他の拍を「眼」と呼びます。例えば、板が一つ、眼が一つの組み合わせからなるリズムを「一板一眼」といい、これは西洋音楽の4分の2拍子となります。また、板一つ、眼三つの組み合わせからなるリズムを「一板三眼」といい、これは4分の4拍子となります。中国の音楽のリズムは、2拍子・4拍子が主流ではありますが、まれに3分割のリズムがみられることもあります。

【参考文献】

- ・藤井知昭、水野信男、山口修、櫻井哲男、塚田健一編 『民族音楽概論』 東京書籍（1992）
- ・下中弘編 『音楽大事典』 平凡社（1983）
- ・藤井知昭監修 『音と映像による世界民族音楽大系レーザーディスク版解説書』 日本ビクター（1995）
- ・加藤徹のホームページ「京劇城」 <http://www.isc.meiji.ac.jp/~katotoru/index.html>

【視聴覚資料】

〔C D〕令和3年度～ 教育芸術社 鑑賞用CD 中学生の音楽2・3上②（DTC-3339/40）

〔DVD〕令和3年度改訂版 教育芸術社 教科書「中学生の音楽」準拠

『中学生の音楽』 第8巻 2・3年上下共通（NBS-828）

〔L D〕『音と映像による世界民族音楽大系Ⅰ』東アジアⅡ 編集：平凡社 発行：日本ビクター株式会社

※群馬県総合教育センター所有

〔C D〕歌劇「仮面舞踏会」（UCCD-90111/2）